

富山県立高岡西高等学校

二年 出雲 充

被爆について

北日本新聞 八月七日 六面

「被爆体験継承 模索続く」の記事

毎年、この時期になると、テレビやニュースなどで、原子爆弾投下の話題を耳にすることが多くなる。六日には広島に、九日には長崎に原子爆弾が投下されたことで日本が受けた損害や、戦争の恐ろしさを世に伝えることが目的ではないだろうか。しかし、今の現代には、それを実際に体験し世に伝える伝承者が減ってきているというところが問題となっている。

私が今、「原爆」と耳にしたときに、思い浮かべるのは、やはり戦争のことについてである。戦争は核兵器や戦車、銃などの人を殺すための武器を生み出し、その武器によって数えきれないほど多くの尊い命を奪った。私は、中学三年の時に授業の一貫として、広島

を訪れたことがある。そのとき、初めて広島
の原爆ドームを生で目にした。もとは立派な
建造物であつたろうものが、天井もなくなつ
て骨組みだけになつて見えるのを見ると、それ
だけで戦争の悲惨さが想像でき、とても恐ろ
しくなつたのを覚えてゐる。また、被爆者体
験談というものを設け、被爆者から実際にあ
つた原爆について話を聞く機会があつた。や
はり、実際に原爆の被害にあつてゐるだけあ
つて、話の内容はとても生々しく、強く戦争
は起こしてはならないという気持ちがあつた。

今、この現代は、大きく目立つた戦争はな
く、平和で穏やかであると感じる。そのため
戦争や原爆といふ言葉は、この時代には、
馴染みにくくなりつつあると思う。光れゆえ
に、戦争に対して、どこか他人行儀になつて
しまい、いつ起こるか分からないものなのに、
深く受けとめなくなつてしまふ。もう二度と
このような出来事を起こさないために、また

世界中で今起こっているかもしれない小さな
紛争もなくなるように、被爆者の重みのある
言葉は必要であると感じる。そして、それを
聞いた私たち現代人も、しっかりと話を受け
とめ、次の世代に受け継いでいかなければな
らないと切に思う。